

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和5年 9月 29日

事業所名 放課後等デイサービス事業所キッズハウスピッピ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	1	個別活動室や静養室を時間や活動内容によって割り振りし、狭いスペースでも工夫して活動出来ている。	活動スペースを活動毎に分けるなどして視覚支援をしつつ、安全に過ごす事が出来る環境整備を行う。
	2	職員の配置数は適切である	5		適切に職員を配置している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	2	床の段差等はなく、バリアフリーに配慮された建物ではある。	トイレが通常の広さであるため、排泄指導の際に支援に必要なスペースが確保できない可能性はある。 今後も継続して、怪我の原因となり得る物は極力排除し、安心安全な環境作りを努める。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5		PDCAサイクルを活用して業務改善に努めている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5		年に一度実施しており、集計して業務改善に努めている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5		ホームページに掲載し、どなたでもアクセス出来るようにしている。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	3	第三者による外部評価を受けていないが、年に一度、サービス提供についての自己評価、保護者様からの評価をいただき、業務改善に繋げている。	今後も、年に一度のサービス提供についての自己評価、保護者様からの評価を継続して行い、業務改善に繋げる。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		月に1回、スキルアップを目的とした内部研修を実施している。内容によっては、外部講師による研修も実施している。	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5		担当職員が中心となり、ニーズを把握し、支援方針を策定している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	3	標準化されたツールは使用していないが、発達段階を考慮して、実態把握に努めている。	今後は標準化されたアセスメントツールを活用し、よりきめ細かなサービス提供に努める。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5		集団活動や個別活動について常時話し合う機会を設定し、活動プログラムを立案している。	今後も定期的に会議を開催し、職員全体で話し合い、活動プログラムを立案する。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	1	放課後や長期休暇中の活動が重複しないようメリハリをつけた活動プログラムを立案している。	利用者様や保護者様のニーズを踏まえながら、行事の企画や活動内容の改善を行う。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5		特に学校休業日には行事を設定し、放課後とは違ったプログラムが体感できるよう支援している。	今後は感染症等の感染状況を見ながら、外出や地域交流の機会を設定予定。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5		集団活動を通して社会性等を養い、個別活動では自己肯定感を高める事が出来るような活動を設定している。	今後も、個別活動と集団活動を組み合わせたサービス提供を実施する。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5		長期休み等で朝の打ち合わせの時間が十分に取れない場合は、申し送りのノート等を活用し、情報共有に努めている。	今後も様々なツールを活用しながら職員間での情報共有を徹底して行い、支援内容や役割分担に限らず、リスクマネジメントについても情報共有し、安全に過ごす事が出来る環境を整える。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5		長期休み等で帰りの打ち合わせの時間が十分に取れない場合は、申し送りのノート等を活用し、情報共有に努めている。	今後も支援についての情報共有を、支援終了後に限らず必要に応じて行う。
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5		毎日の記録を、項目毎に細かく記録している。支援方法に改善点、問題点があった場合は、会議を開催して解決策を講じている。	今後も毎日の記録を徹底して行い、必要に応じて支援の検証をし、支援の質の向上に繋げる。	

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5		定期的(6か月毎)に実施している。	今後も定期的(6か月毎)にモニタリングと計画の見直しを行う。必要な場合には、6か月に満たなくても会議を開催し、計画の見直しを行う。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	4	1	ガイドラインに沿って支援出来るよう努めている。	コロナ禍により「地域交流の機会の提供」は困難だったが、今後感染症等の感染状況をみながら、計画予定。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5		ケース担当職員、児童発達支援管理責任者が参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5		学校行事や下校時刻等、担任の先生と情報共有している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	3	現在、在籍している医療的ケアが必要な利用者様に関しては、保護者様より情報提供を受けて対応している。	今後も、保護者様や関係機関と連携、情報交換し、医療的ケアが必要な利用者様への支援体制を整える。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	1	4	就学前に利用していた保育園等と情報共有する機会はなかった。地域の保健師を通じて、生育歴等の情報収集に努めている。	今後、就学前に利用していた保育園等と情報共有する機会があれば、関係機関と連携し、情報共有と相互理解に努める。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5		卒業予定の利用者様に関する情報を速やかに提供出来るよう情報整理している。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	3	これまで助言や研修を受けた事はないが、今後、機会を見て研修を受けたいと考えている。	今後機会があれば研修に参加し、助言等をいただきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	4	コロナ禍で、交流の機会がなかったが、今後機会があればぜひ交流を深めたい。	感染症等の感染状況をみながら、地域交流を図る。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	5		法人として参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5		送迎時等に、その日の様子を保護者様にお伝えし、保護者様からの相談等があれば対応している。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5		ペアレント・トレーニングは行っていないが、保護者様と情報共有や共通理解を図る事が出来るよう心がけている。	今後、職員間で、ペアレント・トレーニングについての理解を深めるための研修等の機会を設ける予定。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5		文章にて明文化しており、契約時に両者にて読み合わせを行い、各一部ずつ保管している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5		その都度対応している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	4	現在、事業単体の父母の会は無い。また、保護者会の開催経験もない。法人としては「手を繋ぐ育成会」が組織化されている。	保護者様の意向を取り入れ、今後検討したい。父母の会といった組織運営に限らず、保護者様がお互いの事を話し合えるような集い等の実施も検討したい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5		事業所内に意見箱を設置している。	苦情の申し立てがあれば、その都度迅速に対応する。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5		定期的(月1回)に広報誌の発行を行い、活動の様子を伝えている。	今後も月1回広報誌を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を写真や文章で分かりやすく利用者様や保護者様に発信する。
	35	個人情報に十分注意している	5		契約時に個人情報開示書にて外部への情報開示の可、不可の確認をいただいている。各自のケースファイルはスチール棚にて厳重に管理し、外部者の目に映らないように管理、保管している。	今後も個人情報に関するデータは厳重に取り扱う。

保護者への説明責任等	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5		絵カード等の視覚支援を取り入れている。保護者様との会話では専門用語を使わないように心がけている。	今後も絵カード等の視覚支援を中心に取り入れ対応する。保護者様とのやりとりでは、専門用語を使わずわかりやすい伝え方を意識すると共に、直接会って伝える、連絡ノートを活用する、必要に応じて電話で連絡を取る等個別に対応する。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	4	事業所単体では、地域住民を招待するような行事等は実施していない。	法人全体行事の「感謝祭」等の行事に地域住民を招待し、地域交流を図る。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5		各マニュアルを策定している。保護者様に対しては、周知不足な面もある。	今後、保護者様に緊急時の対応について周知徹底していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		不定期に実施しており、十分とは言えない。	今後は年間で計画し、定期的な訓練を実施予定。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		マニュアルに基づき、研修会を実施している。	研修会の他に必要に応じて会議を開催し、虐待防止の意識を高める。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5		これまで該当事例がなく、身体拘束はない。身体拘束を行う場合のマニュアルを法人全体で整備している。	今後対応が必要な場合には、利用者様、保護者様に同意を得た上で、計画書への記載、実施、記録を行う。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	3	食物アレルギーがある利用者様に関しては、保護者様より情報提供していただき対応している。基本的に利用時に口にする物は、家庭から持参していただいた食べ物のみになっている。	必要に応じて、保護者様の許可、情報をいただき、適切に対応する。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5		法人として作成しており、法人全体で情報共有している。	今後も、ヒヤリハット発生時は事業所だけでなく、法人全体で共有する。	

